

この動画はこんな時に！

相手の気持ちを尊重しすぎて、
自分の気持ちを伝えることに、戸惑ったり、
抵抗感を感じたりしているみたいだな

保護者の方から
「うちの子、○○ちゃんと遊んでいるときに、
本当は～をしたいようなのですが言えないみたいで」
など相談された

最近の○○さん、
遊んでいるときの表情が気になるなあ
我慢しすぎているのかしら？



もうすこし詳しく 未就学児ってどんな時期？

3・4歳児は、比較的自分の気持ちを主張してトラブルになることも多い時期ですが、次第に相手の気持ちを考えるようになっていきます。誰かにそのことを認められることで、さらに、「相手の気持ちを考えることはいいことだ」と感じ、

頑張ろうとします。すると、中には、自分の気持ちよりも、相手の気持ちを優先しがちな子も出てきます。5歳児では、さらにその傾向が顕著になります。

動画といっしょにこんな遊びも

作成：山梨学院幼稚園 田村優子

活動案

くまたんのお悩み相談

～思っても言えない～

保育者とくまたん(パペット)による寸劇。
動画を見て、本心を言わずにいる子の思いを考え想像し、
その伝え方を考えて言ってみる。
子どもたちが、くまたんの悩みのアドバイザーとして、
望ましい対応を考えていく。



ねらい

お互いに本心を抑えがちになる
ときがあることを気づき、
本心を伝えてもよいことを知る。

対象

5歳児

保育者の役割

保育を進める役・
くまたん(パペット)役

環境

保育室
座って話が聞ける設定にする。
子どもたちが日ごろ親しんで
いるパペットなどを使用する。

実践のポイント

年下の子や、友だちの気持ちに寄り添えることは、成長であり、とても素敵なことです。相手を思いやる気持ちはしっかり認めていきたいですね。ただ、相手の気持ちを大切にすあまり、我慢がたまって心が苦しくなると困ります。「自分の本心を伝えることも同じように大事だ」ということに気づくことが、この実践のねらいです。





活動の流れとポイント

▶ 動画「あたりまえ認定～おもってもいけないよ…」 >

活動の流れ

動画を視聴する

動画の振り返りをして、感想を聞く

▼ 振り返りのポイント

「みーは、自分の気持ちを言うと、お友だちがガッカリするって思っていたけど、言ってみたら、どうだったかな？」

くまたんの登場

動画と同じような“お悩み”があることを伝え、子どもたちにアドバイスを求める

- 子どもたちと保育者、くまたんの三者で、どうしたらいいか考えていく。

▼ お悩みのポイント

- くまたんは5歳児。このまま我慢して、3歳児さんがしてほしいということをする方がいいのか。
- くまたんはどうしたらいいのか。
- どんな伝え方をしたらいいのか。

まとめる

「誰かに譲ってあげる、やさしいところは素敵だよ。でも、そうすると我慢がいっぱいたまって、苦しくなっちゃうこともあるかもしれないね。そのときは、そのままにしないで、自分の気持ちを伝えることも大切だね。」

「もし、自分で伝えにくかったり、伝え方がわからなかったりしたら、先生を呼んでね。先生、助けになるからね。」

くまたんのお悩みの決め方のヒント

自分と相手との関係性を考えるあまり、本心が言えず、心がつかなくなっているシーンを取り上げるようにします。

子どもたちの日常にあるシーンを提示することによって、「自分だったらどうするか」を想像しやすくなります。

保育者の関わりのポイント

- 全員が見やすい位置に座っているか確認する。

- ねらいに関わる場面を取りあげて、「みーはその時どうしたか」「どうなったか」など、問いかける。
- 子どもたちと応答的に振り返りができるようにする。
- 本心を伝えることで、予想していなかった反応を得られることもあるということを伝える。

- くまたん役の保育者は、くまたんになりきり悩んでいることを演じる。
- 子どもたちが、アドバイスする立場になることで、望ましい対応を導き出せるようにする。
- くまたん役の保育者は、子どもたちの意見を聞きながら、相槌をうったり、さらに質問をしたりして、子どもたちの考えを引き出す。
- 子どもの意見がわかりにくい場合は、保育者が言葉を足したり、言い換えたりしながら、「こういうことかな？」とその子に確認しながらみんなに伝えるようにする。
- 友だちの意見に同意できたら拍手するなど、聞いている子どもたちが能動的に参加できるよう工夫する。
- 友だちの意見をしっかり聞いている子どもの姿を認める。

- 心にかかる負荷を、自分で感じ取れることの大切さを伝える。負荷がかかっているときは、相手をおもんばかるだけでなく、自分の気持ちを人に伝えてもよいことを再確認する。
- 性格により、気持ちを言葉で伝えることが難しい子もいるため、伝えることへの不安もケアする。

お悩み案

- 年下の子と砂遊びをしているとき、その子が使っているシャベルをなかなか「貸して」と言えない。
- 通園バスで、座席を選ぶときは年下の子から選ばせてあげる。すると、いつも自分は好きなところに座れない。など

毎日の保育とのつながり

活動の後、“本当の気持ち”を言葉にできなかったり、不本意な役回りに腹落ちしていない子どもがいたりしたときは、学んだことを実際に行ってみるチャンスです。下記のような言葉をかけ、子どもたちの挑戦をサポートしてあげてください。



事例1

クラスで劇をする際の
役決めで・・・

Aさんは、自分が一番やりたい役ではなかった。でも、イヤな役ではなかったし、仕方ない…と思いながら家に帰った。両親との会話の中で、配役についてのモヤモヤを話した。すると、保護者が心配して、保育者に伝えた。こんなとき保育者は子どもに何て言う？

- 1 両親に本心を話したことを褒め、どんな気持ちだったか聞く。
- 2 保育者にも本心を伝えてくれたことに、「ありがとう」と言う。
- 3 「違う役がしたかったけど、みんなで劇を成功させるために〇〇役を受けたこと」も、素敵だと伝える。
- 4 みんなで創り上げる劇遊びの意味と、それぞれの役に役割と魅力があることを、Aさんと確認する。Aさんが〇〇役を嫌いでないことも再確認する。
- 5 〇〇役が嫌いでなければ、その役のまま劇遊びをしてみようと提案する。やってみて、Aさんの気持ちがどう変化するか、また話してほしいと伝える。
- 6 Aさん以外にも、同じような気持ちの友だちがいることを伝える。その気持ちもわかるので、みんなが劇の内容を覚えたら、役の交代もありえる、と伝える。

ひとこと アドバイス

子どもの意見を尊重することは、子どもの意見通りにすることは、違います。必ずしも、子どもの希望通りに役を変更する必要はありません。

事例2

大縄跳びあそび

縄を回す係は自己申告制にしている。おとなしいMさんは、「したい!」と言い出せない。保育者は、Mさんの表情をみて、気持ちを出せていないと感じた。こんなとき保育者は子どもに何て言う？

- 1 Mさんが大縄跳びが上手なことを褒める。
- 2 保育者が「本当は回す係がしたいのでは」と感じたことを伝えて、Mさんの本心を聞き出す。
- 3 Mさんが友だちの気持ちを考えていることは素敵であると伝える。
- 4 自分の気持ちを、遠慮せずに話すことも大事だと伝える。
- 5 どんな言葉で伝えたらいいか、一緒に考える。
- 6 自分で言うことを応援する。難しかったら一緒に言ってあげる。

ひとこと アドバイス

保育者は、Mさんが気持ちを出せていないと感じたとしても、Mさんは今の遊び方で満足している場合もあります。まず、Mさんの本心を聞くことが大切です。